

BOOK REVIEW 2

拡張する脳

藤井直敬 著

新潮社 ISBN 978-4103347316 2013年発行

評者：唐山英明（富山県立大学）

研究に対する著者のこだわりと情熱。まさにこの一言。近年、世界的に脳機能計測に関する研究が活発に行われている中、独創的な発想や着眼点を持ち、研究成果で高い評価を受ける著者による脳科学に関する啓蒙書である。「つながる脳」の続編である。

本書ではまず、著者がいわゆる社会脳の研究に取り組むまでの経緯が記されており、とても興味深い。また、本学会においても発表されたSRシステムの開発経緯やその後の取り組みを知ることができる。著者の言う「一回性の問題」を克服できると期待されるシステムであり、社会脳の研究に最適な技術を開発するまでの著者のこだわりは、研究者としても是非参考にしたい。SRシステムを一般の方々に公開する取り組みも行われており、極めてクリエイティブな研究であることを再認識した。

従来の脳研究にとどまることなく、脳と脳の相互作用を明らかにしようとする社会脳研究。もうひとつ重要となるのが、多次元生体情報記録手法。長期的に膨大な脳情報と環境情報を計測する。どのような環境でどのような脳活動があり、どのような行動が発現するのか。著者は、ECoG（イーコジー）と呼ばれる侵襲的脳機能計測手法も開発してこの問題を解明しようとする。足りない技術は自分自身が作る。まさに研究とはこういうことだ、と実感させられる。著書の中では、サル同士の社会的な関係性を探るためのエサの獲得行動と脳情報の関係など、著者自身の研究成果についても分かりやすく述べられている。

特筆したいのは、SRシステムにおけるヘッドマウントディスプレイなど、著者の研究にはバーチャルリアリティやトレイグジスタンスやライフログなどの概念が取り入れられていることである。すなわちここから、社会脳研究とバーチャルリアリティ技術は親和性がとても高いと言えよう。本学会のVR心理学研究委員会は、2009年、著者を本学会大会のオーガナイズドセッションにご招待したことがある。その後、著者らのグループは、本学会大会においてSRシステ

ムの発表をした。今考えると、そのようなご縁は必然であったのかとも思う。とにかく、著者の研究は、バーチャルリアリティやトレイグジスタンス、ライフログ、ビッグデータなどのキーワードとともに、多くの研究分野に派生し、連携することであろう。

著者は本書の中でこう呼びかける。中学生や高校生に、このような研究に興味を持ってもらいたい。本書の後半には、研究成果を広く公開する取り組みについて述べられている。例えば、サル版ライフログにアクセスできる「ニューロティコ」。このネーミングにも著者のこだわりが見られる。広くデータを公開し、この研究分野の発展を期待しているのだ。是非、中学生や高校生に本書を読んでもらって、脳研究に興味を持っていただきたい。

著者の研究活動においては、多くの著名人とのコラボレーションも見られる。とにかく研究の目的を達成するためには、技術や知識を持った方への協力を惜しまない。時には、いわゆる大御所にも遠慮のない注文をするのだ。このように研究へのこだわりが随所に見られ、文章からも伝わってくる。

映画の引用をしたり、先行研究を例に挙げ、分かりやすく解説したりするなどして、物事の本質をとらえ、語る。著者には、是非、脳科学界のティコ・ブラーエ、そしてケプラーにもなっていただきたい。読み終えて、そのように思った。多くの人を巻き込み、まさに拡張し続ける著者の研究。今後の研究成果に期待したい。そして、本書を読み、影響を受け、脳科学界におけるケプラーが多く登場することを願う。

最後に、一研究者としての感想を。もっと面白い研究をやってみたい、そんな思いにさせてくれる一冊であった。本書には夢が語られていた。この書評を読んで、その夢を少しでも共有してみたいと思っただけならば幸いである。なお、私がSRシステムを未体験であることはここだけのお話ということをお願いしたい。

